J. FRONT RETAILING

VEGETABLE OIL INK

2010年度期末

株主通信

［第4期］
平成22年3月1日から
平成23年2月28日まで

7

J.フロント リテイリング株式会社
証券コード：3086

危機感をバネに、さらに改革を加速

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様の安全と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

依然として厳しい消費環境が続く中、J.フロント リテイリング（JFR）グループの2010年度決算は、これまで取り組んできた経営改革の成果により、営業利益と経常利益が3期ぶりの増益に転じるとともに、当期純利益は2期連続の増益を達成いたしました。

しかしながら今回の予期せぬ大震災により、経営環境は極めて不透明なものとなり、当社グループへの影響も避けられない状況にあります。これらに対応すべくJFRグループは、強い危機感を持って今まで以上にスピードを上げて経営改革に取り組み、震災の影響を最小限に抑えるとともに、将来の成長発展につなげていく所存です。株主の皆様には、一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役会長 兼 最高経営責任者（CEO） 奥田 務　　代表取締役社長 茶村俊一

代表取締役会長
兼 最高経営責任者（CEO）
奥田 務

代表取締役社長
茶村 俊一

Point 1

当期の概況
3期ぶりの営業増益を達成

当期のJFRグループの連結業績は、第2四半期業績発表時の見通しに対して、売上高は9,501億円と0.8%の微減でしたが、コスト管理を徹底した結果、営業利益は7.0%増の13.2億円、経常利益は8.7%増の16.9億円、それぞれ上回りました。この結果、前期比較では、売上は3.3%減ですが、前期から減収率を大きく改善するとともに、営業利益は9.4%増の203億円、経常利益は5.6%増の210億円、当期純利益は8.5%増の88億円と、各利益段階で増益となりました。営業利益と経常利益の増益は、いずれも2007年度以来3期ぶり、当期純利益は前年度に引き続き2期連続の増益となりました。

当期は、大丸梅田店が増床工事の影響で売場面積が年度平均でほぼ半減するという非常に厳しい状況でしたが、梅田店のマイナスを全社グループでカバーし、増益を達成することができました。これに伴い、期末配当につきましては3.5円とさせていただきました。2期ぶりに復活させた中間配当とあわせ、年間では前期と同額の7円配当となります。

セグメント別では、主力の百貨店事業は前期比2.8%の減収、14.3%の増益でした。北館オープンにより新しい顧客層を開拓した大丸心斎橋店や、2003年の開業以来7年連続で増収を続ける大丸札幌店をはじめ、5店舗の売上が前年を上回りましたが、松坂屋岡崎店の閉店や、大丸梅田店の売場面積大幅縮小の影響などにより減収となりました。一方、経費面で、売場運営体制の見直しによる人件費の削減を中心に、広告宣伝費などあらゆる経費の削減に取り組んだ結果、大幅な増益を達成いたしました。

スーパーマーケット事業は閉鎖店舗の影響などにより3.9%の減収で、80.2%の減益でした。卸売事業は13.9%の減収で13.1%の減益ですが、第4四半期は増益に転じています。

一方、その他事業は、建装事業、カード事業、人材派遣事業が好調で、14.4%の増収、52.1%の増益となりました。

増床オープンを果たした大丸梅田店

進む新百貨店モデルの取り組み

Point2 「大衆とともに歩む百貨店」という原点に戻る

JFRグループは、百貨店事業の再生に向け、「新百貨店モデル」の構築に全力で取り組んでおります。

日本の百貨店は、欧・米の百貨店とは異なり、「大衆」を主な支持基盤として、これまで発展・繁栄してきました。幅広い顧客層のご要望に応えるため、ファッションからリビング・食品まで、多種多様な商品を漏れなく店頭に揃えるとともに、価格構成も、低価格から超高級まで幅広くとることで、圧倒的多数のお客様の憧れと強い支持を得ていました。

しかしながら、「カジュアル志向」や「節約志向・価格志向」が進むなど、「大衆」が時代とともに、質・量ともに大きく変化しているにもかかわらず、百貨店は、この変化に対応できず、今の「大衆」から離れて行ったと考えられます。

新百貨店モデルでは、「大衆とともに歩む百貨店」の原点に戻って、「どうすれば、もう一度多くのお客様に利用していただけるようになるのか」を改めて問い直し、時代に適合した新しい百貨店への変革を進めています。

そのために、JFRグループでは、各店舗ごとに徹底した地域マーケットの分析を行って、それぞれの地域における競争力強化を目指した店舗戦略を策定し、これを基本に、「ライフスタイルのカジュアル化」「節約志向・価格志向」などマーケット変化への適合と、対象マーケットの拡大に向け、商品構成やブランド構成やサービスの見直しを進めています。

新百貨店モデルとは

お客様がわざわざ足を運びたくなるような、
魅力的、かつ収益性の高い店舗を創造するための
百貨店再生プログラム

原点は、『大衆とともに歩む百貨店』

時代に適合した新しい百貨店への変革

入店客数が増加し、顧客層が拡大

取り組みの成果は入店客数の増加という形で現れています。百貨店の入店客数は、リーマンショック後、減少傾向が続いていましたが、新百貨店モデルの確立に取り組んでから、大丸松坂屋百貨店の入店客数は改善傾向にあり、当期は主要10店舗の入店客数が、対前年5.8%増となり、特に下期は、増床工事の影響がある大丸梅田店を除く、殆どの店舗において、入店客数が増加しました。今までショッピングセンターや駅ビルなどに流れていたお客様が、大丸・松坂屋の店舗にご来店いただいていると考えています。

特に、今まであまり百貨店のご利用が無かったヤング・アラウンド30のお客様のご来店が飛躍的に増えています。これは、一昨年11月の大丸心斎橋店北館オープンと同時に誕生したヤング（18～24歳）・アラウンド30（25～34歳）の女性を対象とする編集売場＝スペシャリティゾーンである「うふふガールズ」を、昨年は大丸京都店（4月）、

主要10店舗入店客数推移(対前年:%)

	08年下期	10年下期
心斎橋店	△2.9	15.1
梅田店	11.1	△8.5
純東京店	△13.0	△2.0
純京都店	△4.5	2.8
純神戸店	△2.3	0.2
札幌店	1.1	2.6
純名古屋店	△6.8	3.8
上野店	△1.4	4.8
静岡店	△11.0	1.9
銀座店	43.2	25.6
増加店舗数	3店	8店

松坂屋銀座店:うふふガールズGINZA

大丸神戸店:うふふガールズKOBE

大丸札幌店:うふふガールズ

松坂屋銀座店（10月）に、本年に入り大丸神戸店、梅田店、札幌店に展開するなど、スピーディに多店舗化したことが功を奏したと考えています。顧客属性の把握が可能な「自社カード顧客」の売上をみると、2010年度のヤングとアラウンド30のお客様合計のお買い上げ額は、工事影響がある梅田店と閉鎖店舗を除くと、全社で対前年11.8%増加しており、ヤングのお客様に限ると、59.3%の大幅増となっています。

これらの新規のお客様は、「うふふガールズ」だけでなく、化粧品やケーキなどの食品、さらには欧・米スーパーブランドなど、他の売場でもお買上いただいていることがわかっています。このように、お客様の「節約志向・価格志向」が続き、お買上単価が減少する中、入店客数を増やすとともに、品揃えの幅広さという他の業態に無い百貨店の強みを活かし、ご来店いただいたお客様一人当たりのお買上点数を増やすことが、売上の増加につながると考えております。

また、これまでの百貨店が弱かった、若いお客様にご来店いただき、将来の優良顧客として、今から固定客になっていただくことは、当社グループの中期的な成長に大きく寄与するものと考えております。

関連事業戦略

Point3 既存事業の強化と新たな成長分野に取り組む

JFRグループは、百貨店事業の経営改革推進と同時に、既存関連事業の強化や新たな成長分野への取り組みなど、グループ全体としてバランスよく収益向上と成長をはかってまいります。経営資源につきましても、百貨店事業に極度に偏ることなく、関連事業にも積極的にバランスよく投入していきます。

今後成長の見込める通信販売事業については、事業の効率的運営と経営資源の集中による発展・拡大を目的として、大丸松坂屋百貨店のウェブ通販事業を、カタログ通販を主力とする「㈱大丸ホームショッピング」に再編統合し、本年3月から新社名「㈱JFRオンライン」として新たなスタートを切りました。当面は、基盤となるカタログ通販事業の利益を原資に、ウェブ通販事業の強化を進める予定です。

また、本年3月、JFRは、雑貨販売の「プラザ」や化粧品事業、通販事業、レストラン・洋菓子事業を運

営する株式会社スタイリングライフ・ホールディングスの株式を取得し、持分法関連会社化いたしました。今後もグループの成長に向け、アライアンスやM&Aに取り組んでまいります。

2011年度につきましては、以上の取り組みに加え、4月19日に全館グランドオープンした大丸梅田店の増床効果などにより、当初は増収増益を見込んでいました。しかしながら、今回の予期せぬ大震災の影響により、経営環境は一変し、当初の見通しを見直さざるを得ない状況となりました。

今回の連結業績予想においては、首都圏の店舗が、今後も電力需給逼迫の影響を受ける可能性が高いことに加え、工場・物流施設被災による、企業業績や生産活動低迷の影響が今後本格化すると考えられること、さらに、自粛ムードや株価低迷、復興財源として増税が取りざたされることなどにより消費マインドの悪化が懸念されること、等を踏まえ、慎重に見通しております。

2011年度 連結業績見通し

売　上　高：9,380億円（前期比1.3%減）
営 業 利 益：140億円（同31.1%減）
経 常 利 益：137億円（同35.0%減）
当期純利益：45億円（同49.2%減）

※上記の見通しは、あくまで現時点での暫定的な予想数値です。今後も状況の変化を見極め、変更が必要と判断した場合は速やかにお知らせいたします。

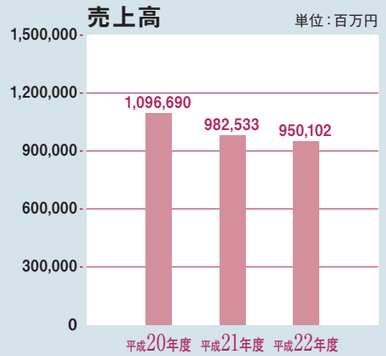
予想連結売上高は、前期比1.3%減の9,380億円、連結営業利益は31.1%減の140億円としました。連結当期純利益につきましては、特別損失として、会計制度の変更により今年度から新たに適用される資産除去債務の過年度分22億円などを計上することから、49.2%減の45億円としています。

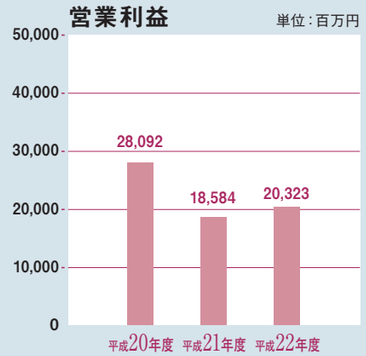
配当につきましては、前期と同額の年間7円、中間配当ならびに期末配当については、それぞれ3.5円を予定しています。

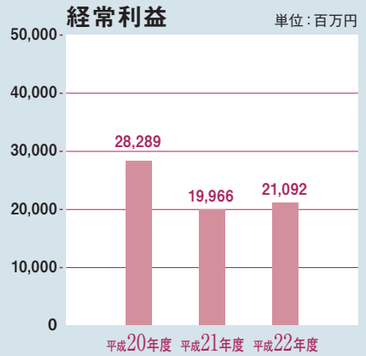
2011年度は、大震災により経営環境が様変わりした結果、現時点では減益を見込まざるを得ませんが、今回の危機をさらなる変革を進める契機と前向きに受け止め、新百貨店モデルの確立をはじめとする経営改革にグループ全社が一丸となって取り組み、具体的な成果を積み上げて行きたいと考えております。

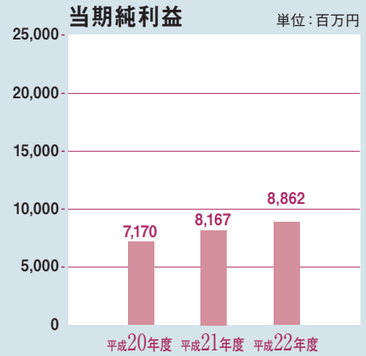
財務ハイライト（連結）

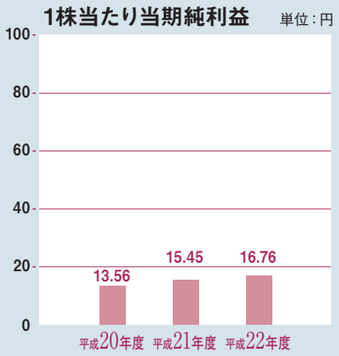
Financial Highlights

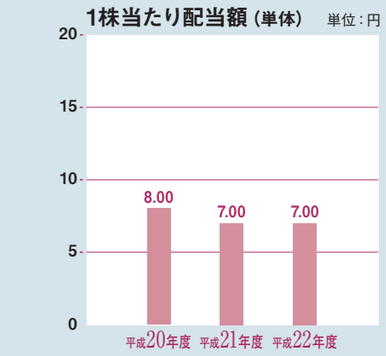


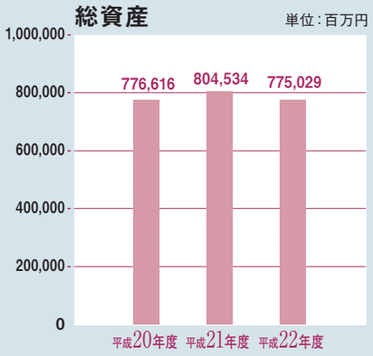


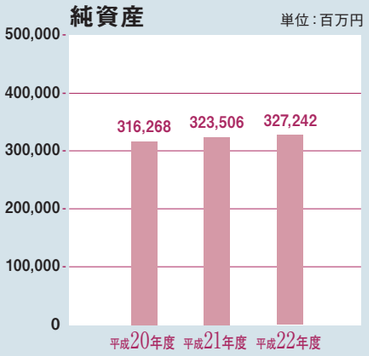












当期の概況

JFR（平成22年3月1日から平成23年2月28日まで）

J.フロント リテイリング株式会社

経営成績

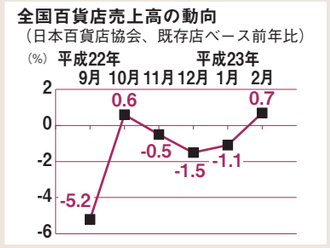
当連結会計年度の日本経済は、企業収益の改善など持ち直しの動きが見られましたが、デフレが継続するなか、雇用・所得環境は依然として厳しく、回復感に乏しいうちに推移いたしました。

百貨店業界では、業種・業態間の熾烈な競争に加えて、消費者の価値観の変化や根強い節約志向などにより、売上高は前年実績を下回る状況で推移いたしました。

このような状況下、当社グループは、昨年3月に百貨店事業の大丸と松坂屋の合併で1業種1社体制を完成させ、新たなグループ経営体制のもと課題解決にスピードをあげて取り組みました。

百貨店事業では、「新百貨店モデル」の早期確立を目指し、従来の百貨店の枠にとらわれない、マーケット変化に対応した新しい店づくりを進めるとともに、高効率で生産性の高い店舗運営体制の構築に取り組みました。

また、将来の経営基盤強化を図るため、激化する大阪梅田地区での競合に対応して大丸梅田店増床計画を推進したほか、大丸東京店増床計画などに取り組みました。一方、松坂屋名古屋駅店を8月29日に営業終了し、博多大丸長崎店については本年7月末日（予定）をもって営業を終了することを決定いたしました。

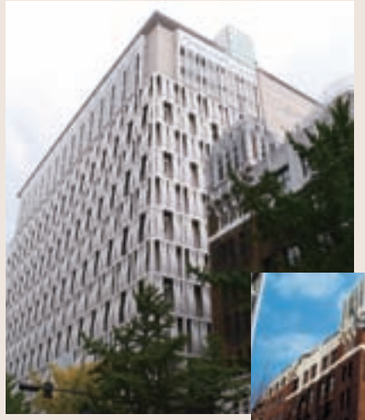


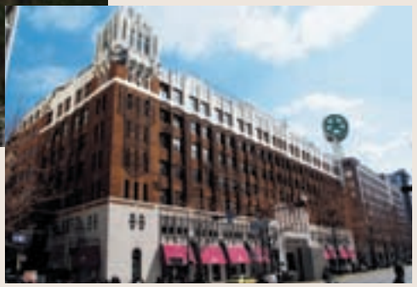
グループ全体の成長に向けた取り組みでは、さらなる成長が期待できるインターネットを中心とする通販事業の強化に向け、大丸松坂屋百貨店の通販事業の一部を大丸ホームショッピングへ集約し、本年3月から社名をJFRオンラインとして新たにスタートいたしました。加えて、若い女性に支持されている雑貨小売業「プラザ」を展開する株式会社スタイリングライフ・ホールディングスの株式を本年3月に取得し、持分法適用関連会社化いたしました。

また、経費削減に向けた取り組みでは、委託業務のさらなる内製化によるコストの低減や施設の集約化など、経費構造の一層の見直しを図るとともに、グループ各社に対するコストコントロールを強化し、経費の効率化を推進いたしました。

大丸梅田店

松坂屋銀座店





大丸心斎橋店

加えて、人的生産性の向上に向けても、要員のグループ内最適配置によるスリム化と少数精鋭化を推進するなど、組織・要員構造改革にグループ全体で取り組みました。

以上のような諸施策に取り組みました結果、当期の連結業績の売上高は3.3%減の9,501億2百万円となりましたが、販売費及び一般管理費の圧縮により、営業利益は9.4%増の203億23百万円、経常利益は5.6%増の210億92百万円となりました。

また、特別利益として松坂屋名古屋駅店の退店受入金、投資有価証券売却益などを計上し、特別損失として売場改装等に伴う固定資産処分損、投資有価証券評価損などを計上いたしました結果、当期純利益は8.5%増の88億62百万円となりました。

なお、期末配当金につきましては、1株につき3円50銭とさせていただきました。これにより中間配当を加えた年間配当金は7円となります。

事業の種類別セグメントの業績は、以下のとおりであります。

百貨店事業

当事業では、従来からの課題である「マーケット対応力の弱さ」と「高コスト・低収益構造」を克服するために「新百貨店モデル」の確立に全力で取り組みました。

マーケット対応力強化の取り組みでは、幅広い年齢層のお客様への品揃え強化と商品価格帯見直しによる値ごろ感の充実を図りました。特にターゲットやコンセプトを明確にした売場づくりを行い、お客様にひと目で自分の価値観やライフスタイルに合っていると感じていただける「スペシャリティゾーン」の構築に取り組みました。その代表例として、大丸心斎橋店で導入以来好評のヤングレディスファッション「うふふガールズ」は、大丸京都店、大丸神戸店、松坂屋銀座店でも展開し、20代・30代女性のご来店とお買い上げを大幅に増加させました。加えて大丸京都店では、これまで以上に地域のお客様のニーズに対応するため、「スペシャリティゾーン」としての婦人特選売場「インターナショナル

ブティック&サロン・ド・グゥ」、婦人靴売場「シンデレラアベニュー」、食品フロア「大丸ごちぱら館」を構築・強化いたしました。また、松坂屋銀座店へのファストファッション「フォーエバー21」や家電量販店「ラオックス」の導入など、従来の百貨店の枠にとらわれない売場づくりと顧客層の拡大にも取り組みました。

一方、生産性の高い店舗運営を目指して、仕入・販売業務を主に取引先が行う「ショップ運営」と百貨店自らが行う「自主運営」の2つの売場運営形態に分類し、それぞれの特性に合わせたオペレーションの確立と要員配置、人材育成などに取り組みました。

家電量販店「ラオックス」
（松坂屋銀座店）

松坂屋創業400周年ポスター

大丸梅田店　3階
インターナショナルブティック

なお、大規模増床を行った大丸梅田店では、「新百貨店モデル」の集大成として、数多くの「スペシャリティゾーン」の構築や効率的な店舗運営の実現に取り組みました。

販売促進活動では、全店で春と秋に開催した「サンクスフェスティバル」や、「松坂屋創業400周年」の記念イベントなど、話題性の高い企画を実施したほか、新たなコミュニケーションツールとして、インターネットやメールを活用した「デジタル販促」にも積極的に取り組みました。さらに、カードによる固定客づくりをより重要な取り組みと位置づけ、「さくらパンダカード」や「うふふガールズカード」の発行による新たな会員拡大に努めました。

以上のような施策に取り組みましたが、当事業の売上高は、大丸梅田店の増床工事による売場面積の半減や松坂屋岡崎店、松坂屋名古屋駅店の閉鎖などの影響により、2.8%減の7,393億11百万円となりました。しかしながら、販売費及び一般管理費の削減に取り組みました結果、営業利益は14.3%増の148億53百万円となりました。

ピーコックストア 中野店

ピーコックストア 高野台店

スーパーマーケット事業

ピーコックストアは、地域に密着した高質食品スーパーマーケットを目指し、食の安全・安心に加え、値ごろ感のあるオリジナル商品の拡充や、誕生50周年記念企画商品の提供に取り組みました。また、地域のマーケット変化に対応して、泉北晴美台店（大阪府堺市）、高野台店（東京都練馬区）をはじめとする店舗改装を実施したほか、1月には、建替えのため閉鎖しておりました中野店（東京都中野区）を再オープンいたしました。しかしながら、将来の商圏動向を踏まえて閉鎖した5店舗の影響もあり、売上高は3.9%減の1,184億62百万円、営業利益は80.2%減の2億82百万円となりました。

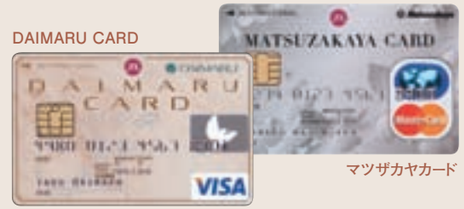
卸売事業

大丸興業は、アセアン諸国を中心とした海外での新規商材調達や国内での販路拡大に取り組むなか、金属樹脂加工品や食品の一部分野では回復の動きもありましたが、全般的に市場環境は依然厳しく、売上高は13.9%減の544億45百万円、営業利益は13.1%減の22億35百万円となりました。

その他事業

その他事業では、大都市圏を中心に各種商業施設等の内装受注が増加したJ. フロント建装や、カード会員数拡大により収益が着実に伸びているJFRカード、また人材派遣業のディンプルが寄与し、売上高は14.4%増の927億37百万円、営業利益は52.1%増の42億63百万円となりました。

DAIMARU CARD



マツザカヤカード

さくらパンダカード

連結貸借対照表

（単位:百万円）

科目	当期（平成23年2月28日現在）	前期（平成22年2月28日現在）
（資産の部）		
流動資産	**158,096**	**178,744**
現金及び預金	34,087	44,103
受取手形及び売掛金	53,937	59,598
有価証券	1,484	776
たな卸資産	30,382	35,186
繰延税金資産	13,020	13,295
その他	25,945	26,456
貸倒引当金	△761	△673
固定資産	**616,933**	**625,790**
有形固定資産	**498,678**	**499,571**
建物及び構築物（純額）	135,763	135,932
土地	354,742	358,177
建設仮勘定	5,634	2,870
その他（純額）	2,537	2,591
無形固定資産	**18,466**	**18,951**
投資その他の資産	**99,787**	**107,267**
投資有価証券	26,884	28,405
長期貸付金	1,505	992
敷金及び保証金	47,760	51,420
繰延税金資産	7,764	11,215
その他	18,650	18,074
貸倒引当金	△2,776	△2,840
資産合計	**775,029**	**804,534**

科目	当期（平成23年2月28日現在）	前期（平成22年2月28日現在）
（負債の部）		
流動負債	**246,190**	**263,109**
支払手形及び買掛金	76,310	76,955
短期借入金	43,181	46,324
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払法人税等	3,296	2,972
前受金	17,463	27,610
商品券	41,727	33,311
賞与引当金	6,352	6,979
役員賞与引当金	164	221
販売促進引当金	337	350
商品券等回収損失引当金	9,179	8,413
事業整理損失引当金	1,666	1,641
その他	46,510	53,328
固定負債	**201,596**	**217,918**
長期借入金	65,476	74,612
繰延税金負債	95,717	98,331
再評価に係る繰延税金負債	1,492	1,492
退職給付引当金	29,409	32,002
役員退職慰労引当金	65	58
負ののれん	3,443	5,761
その他	5,990	5,660
負債合計	**447,786**	**481,028**
（純資産の部）		
株主資本	**318,523**	**315,231**
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	209,605	209,636
利益剰余金	84,895	81,585
自己株式	△5,976	△5,991
評価・換算差額等	**△490**	**△736**
その他有価証券評価差額金	△477	△676
繰延ヘッジ損益	△12	△60
新株予約権	**115**	**124**
少数株主持分	**9,093**	**8,887**
純資産合計	**327,242**	**323,506**
負債純資産合計	**775,029**	**804,534**

Point 連結貸借対照表

当期末の資産合計は7,750億29百万円で、資金の効率化、有利子負債の圧縮を進めたことなどにより、前期末に比べ295億5百万円の減少となりました。

また、負債合計は4,477億86百万円で、前期末に比べ332億42百万円の減少となり、このうち「有利子負債」は1,086億58百万円で、前期末からは172億79百万円の圧縮となりました。

一方、純資産合計は3,272億42百万円で、前期末に比べ37億36百万円の増加となりました結果、当期末の自己資本比率は前期末に比べ1.9ポイントアップの41.0%となりました。

Point 連結損益計算書

連結売上高は、9,501億2百万円で、対前期比3.3%の減収となりましたが、コスト管理の徹底により、販売費及び一般管理費を5.6%削減できましたことから、営業利益は9.4%の増益となりました。

また、経常利益は5.6%の増益、当期純利益も8.5%の増益となり、各利益段階で増益となりました。

連結損益計算書

（単位:百万円）

科目	当期（平成22年3月1日から平成23年2月28日まで）	前期（平成21年3月1日から平成22年2月28日まで）
売上高	**950,102**	**982,533**
売上原価	**720,514**	**742,321**
（売上総利益）	229,588	240,211
販売費及び一般管理費	**209,265**	**221,627**
営業利益	**20,323**	**18,584**
営業外収益	**7,185**	**7,899**
受取利息	278	254
受取配当金	478	502
債務勘定整理益	3,441	3,371
負ののれん償却額	2,317	2,326
持分法による投資利益	66	200
その他	604	1,245
営業外費用	**6,416**	**6,517**
支払利息	1,717	1,679
固定資産除却損	202	183
商品券等回収損失引当金繰入額	3,436	3,615
その他	1,059	1,039
経常利益	**21,092**	**19,966**
特別利益	**2,761**	**5,186**
固定資産売却益	455	3,134
投資有価証券売却益	569	970
退店受入金	1,600	—
事業整理損失引当金戻入額	136	938
関係会社株式売却益	—	57
その他	—	85
特別損失	**9,200**	**11,330**
固定資産処分損	3,382	1,195
投資有価証券評価損	1,434	1,800
減損損失	1,097	3,505
事業整理損	1,940	1,251
事業構造改善費用	1,148	—
たな卸資産評価損	—	665
不動産取得関連費用	—	1,822
その他	197	1,089
税金等調整前当期純利益	**14,652**	**13,822**
法人税、住民税及び事業税	4,550	4,807
過年度法人税等	—	1,598
法人税等調整額	938	△1,411
少数株主利益	300	661
当期純利益	**8,862**	**8,167**

連結財務諸表 -JFR-

連結株主資本等変動計算書（平成22年3月1日から平成23年2月28日まで）

（単位:百万円）

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計			
平成22年2月28日残高	**30,000**	**209,636**	**81,585**	**△5,991**	**315,231**	**△676**	**△60**	**△736**	**124**	**8,887**	**323,506**
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△5,552		△5,552						△5,552
当期純利益			8,862		8,862						8,862
自己株式の取得				△53	△53						△53
自己株式の処分		△31		67	36						36
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						199	47	246	△9	205	443
連結会計年度中の変動額合計	—	△31	3,309	14	3,292	199	47	246	△9	205	3,736
平成23年2月28日残高	**30,000**	**209,605**	**84,895**	**△5,976**	**318,523**	**△477**	**△12**	**△490**	**115**	**9,093**	**327,242**

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位:百万円）

科目	当期（平成22年3月1日から平成23年2月28日まで）	前期（平成21年3月1日から平成22年2月28日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,270	22,996
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,432	△40,879
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,128	29,212
現金及び現金同等物に係る換算差額	△20	△121
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△10,311	11,208
現金及び現金同等物の期首残高	43,515	32,307
現金及び現金同等物の期末残高	33,204	43,515

Point 連結株主資本等変動計算書

当期末の純資産合計は3,272億42百万円で、主に利益剰余金の増加により前期末に比べ37億36百万円の増加となりました。

Point 連結キャッシュ・フロー計算書

○営業活動によるキャッシュ・フロー

利益が増加した一方、未払金等の支払増加などにより、前期に比べ17億26百万円減少の212億70百万円の収入となりました。

○投資活動によるキャッシュ・フロー

大丸心斎橋店北館取得がありました前期に比べ、固定資産の取得による支出が411億47百万円減少したことから、84億32百万円の支出となりました。

○財務活動によるキャッシュ・フロー

長短借入金の返済や社債の償還により、231億28百万円の支出となりました。

株主様ご優待制度のご案内

J.フロント リテイリング株式会社は、毎年2月末日現在で1,000株以上ご所有の株主の皆さまに対し、（株）大丸松坂屋百貨店および関係百貨店（全国23店舗）でご利用いただける「J.フロント リテイリング株主様 お買い物ご優待カード」を5月中に発行いたします。

なお、毎年8月31日現在の新規株主の皆さまには、有効期間を12月1日から半年間、ご利用限度額を下表の半額に設定し、11月中に発行いたします。

優待 01 現金によるお買物が 10%OFF!

ただし、税込1,000円未満のお買物については割引いたしません。また、一部割引対象外の商品がございます。

ご利用限度額（毎年6月1日から翌年5月31日まで）

2月末ご所有株式数	ご利用限度額（税込値札価格）
1,000株以上 3,000株未満	100万円
3,000株以上10,000株未満	単元株数（1,000株）ごとに50万円ずつ加算
10,000株以上	500万円（上限）

優待 02 大丸・松坂屋の各店ミュージアムなどに 無料入場!

本カードのご提示により、ご本人およびご同伴者1名様に限り、（株）大丸松坂屋百貨店の有料文化催事へ無料でご入場いただけます。

（博多（福岡天神・長崎）・下関・高知・鳥取の各大丸の有料文化催事には適用されません。）

ご利用上のご注意

1.本カードは、お買い上げ時に売場係員にご提出いただきますと、以下の（株）大丸松坂屋百貨店および関係百貨店における税込1,000円以上の現金による値札価格でのお買物に限り、上記のご利用限度額の範囲内でその10%を割引いたします。（ただし、フォーエバー21は5%割引）

（株）大丸松坂屋百貨店
大丸心斎橋店、大丸梅田店、大丸東京店、大丸らぽーと横浜店、大丸浦和パルコ店、大丸京都店、大丸山科店、大丸神戸店、大丸新長田店、大丸須磨店、大丸芦屋店、大丸札幌店、松坂屋名古屋店、松坂屋豊田店、松坂屋高槻店、松坂屋上野店、松坂屋銀座店、松坂屋静岡店
（株）博多大丸（福岡天神店、長崎店）、（株）下関大丸、（株）高知大丸、（株）鳥取大丸

2.本カードは、全国百貨店共通商品券（日本百貨店協会加盟店発行分）、百貨店ギフトカード、（株）大丸松坂屋百貨店および関係百貨店が独自に発行する商品券・ギフトカード・商品お取替え券・友の会カードの通用店でのお買物に限り、現金によるお買物と同様にご利用いただけます。なお、他社発行クレジットギフト券によるお買物につきましては、（株）大丸松坂屋百貨店、（株）博多大丸および（株）下関大丸でのご利用時のみ、現金によるお買物と同様にご利用いただけます。
（その他の商品券、お買物券、商品お引換券、デビットカード等によるお買物にはご利用いただけませんのでご注意ください。）

3.本カードは、（株）大丸松坂屋百貨店および関係百貨店のお得意様口座、各種クレジットカード、通信販売・代金引換によるお買物およびそのご入金にはご利用いただけません。

4.本カードは、（株）大丸松坂屋百貨店および関係百貨店の他のお買物優待券、お買物優待制度、他の割引およびポイント付与制度との併用はできません。

5.本カードは、次のものについては割引いたしません。
生鮮食品（海産物・精肉・青果）、書籍・CD類、たばこ、切手・印紙類、商品券類、各種商品引換券・ギフト券類、金・白金・銀の地金、貨幣類、各種送料・箱代・修理代、レストラン・喫茶、理容・美容室・エステティックなどの施術サービス、旅行代金、その他（ルイヴィトン、ティファニー、ブルガリ、カルティエ、エルメス、ロエベ、シャネル、東急ハンズ、ユニクロなど）特に各社が指定したもの。
※なお、（株）博多大丸、（株）下関大丸、（株）高知大丸および（株）鳥取大丸では、上記に加え、「特価商品、食料品全般」については割引いたしません。

6.本カードは、他人に譲渡、売買、貸与等をされた場合は無効といたします。本カードは紛失されても再発行いたしません。また、法人株主様の他のご名義への分割書換発行はできませんので、なにとぞご了承くださいませ。

大丸ミュージアムKOBE　大丸神戸店9階

Event Schedule
イベント　スケジュール

大丸・松坂屋各店の主なイベント

大丸・松坂屋の各店では各種イベントを開催し
日常とは違った空間を演出することにより
お買い物とはまた違った楽しみを
皆さまにご提供いたします。

松坂屋美術館　松坂屋名古屋店南館7階

今後の展覧会スケジュール

2011年 **6月**

第33回　日本新工芸展（松坂屋美術館）
6月1日(水)～6月7日(火)

第21回日本陶芸展
（大丸心斎橋店　北館14階イベントホール）
6月1日(水)～6月8日(水)

生誕110年記念　荻須高徳展
～憧れのパリ、煌めきのベネチア～
（松坂屋美術館）
6月11日(土)～7月3日(日)

ZARD 20th YEAR展
～History of IZUMI SAKAI～
（松坂屋名古屋店　南館8階(マツザカヤホール)）
6月22日(水)～6月28日(火)

ZARD 20th YEAR展

7月

昭和・メモリアル　与 勇輝展（松坂屋美術館）
7月9日(土)～8月7日(日)

いけばな新進作家展2011
（大丸心斎橋店　北館14階イベントホール）
7月23日(土)～7月31日(日)

8月

世界の蝶と甲虫展
（大丸心斎橋店　北館14階イベントホール）
8月10日(水)～8月22日(月)

岩合光昭写真展「ねこ」
（大丸ミュージアムKYOTO(大丸京都店6階)）
8月10日(水)～8月22日(月)

昭和・メモリアル　与 勇輝展
（大丸ミュージアムKOBE(大丸神戸店9階)）
8月10日(水)～8月22日(月)

ZARD 20th YEAR展
～History of IZUMI SAKAI～
（大丸札幌店　7階ホール）
8月10日(水)～8月15日(月)

愛知県立芸術大学 模写研究40年の歩み
国宝・至宝 模写作品展
（松坂屋美術館）
8月13日(土)～8月28日(日)

ポケモンセンターなつまつり in 松坂屋名古屋店
（松坂屋名古屋店　南館8階(マツザカヤホール)）
8月10日(水)～8月15日(月)

リカちゃん展 in OSAKA
（大丸心斎橋店　北館14階イベントホール・劇場）
8月25日(木)～8月30日(火)

岩合光昭写真展「ねこ」
©MITSUAKI　IWAGO

「茶碗　今を生きる」
十五代 樂 吉左衛門 作
焼貫黒樂　銘 白駱
1986(昭和61)年 樂美術館蔵

9月

岩合光昭写真展「いぬ」
（大丸ミュージアムKOBE(大丸神戸店9階)）
9月2日(金)～9月12日(月)

松坂屋創業400周年・松坂屋美術館開館20周年記念
川合玉堂展～描かれた日本の原風景～
（松坂屋美術館）
9月3日(土)～10月10日(月・祝)

岩合光昭写真展「ねこ」
（大丸心斎橋店　北館14階イベントホール）
9月14日(水)～9月26日(月)

第38回深雪アートフラワー合同展 ※入場無料
（大丸心斎橋店　北館14階イベントホール）
9月28日(水)～10月3日(月)

10月

再興第96回院展
（大丸心斎橋店　北館14階イベントホール・劇場）
10月12日(水)～10月18日(火)

いけばな神戸展
（大丸ミュージアムKOBE(大丸神戸店9階)）
10月13日(木)～10月18日(火)

松坂屋創業400周年・松坂屋美術館開館20周年記念
「茶碗 今を生きる －樂歴代と時代を語る名碗－」(仮称)
（松坂屋美術館）
10月19日(水)～11月27日(日)

武政健夫ガラス彫刻展
（大丸ミュージアムKYOTO(大丸京都店6階)）
10月19日(水)～10月30日(日)

第45回いけばな大阪展
（大丸心斎橋店　本館7階会場）
10月20日(木)～10月28日(金)

昭和・メモリアル　与 勇輝展
（大丸札幌店　7階ホール）
10月26日(水)～11月7日(月)

11月

桑原専慶流いけばな展
（大丸ミュージアムKYOTO(大丸京都店6階)）
11月2日(水)～11月7日(月)

昭和・メモリアル　与 勇輝展
「面映」撮影:武田正彦

ホームページのご案内

大　丸　http://www.daimaru.co.jp/museum/index.html
松坂屋　http://www.matsuzakaya.co.jp/　から各店のイベントカレンダーをご覧ください。

※松坂屋美術館の展覧会情報は専用ホームページをご覧ください。
http://www.matsuzakaya.co.jp/museum/museum.html

※上記はいずれも予定です。

展覧会名称・会期・会場などは変更する場合がございます。

特集

この春全館一新!
「高感度×デイリー」な、新感覚の百貨店

大丸 大阪・梅田店

大丸梅田店は4月19日、大規模改装を終え、全館グランドオープンを迎えました。「コンテンポラリーなマルチコミュニケーションストア」をコンセプトに、売場面積を約1.6倍に拡大した新生・梅田店は、ショッピングの楽しさと日常使いの便利さの双方を追求した「高感度×デイリー」な百貨店。ひと目で「私の売場」と共感してもらえる多彩な「スペシャリティゾーン」を配置するとともに、多くのお客様のご要望にお応えできる幅広い品揃え・サービスを実現いたしました。

4月19日

全館グランドオープン

うふふガールズ（1階西、5階）

ufufugirls♥ うふふガールズ

**ヤングの“欲しい”を集約!
45ブランドを取り揃えた、
過去最大の「うふふガールズ」**

人気のスペシャリティゾーン「うふふガールズ」を、45ブランドという過去最大の規模で展開。「わたしたちの共感コミュニティ」をコンセプトに、洋服だけでなく、ライフスタイル雑貨や食を扱うショップも取り入れました。

インターナショナルブティック（3階）

**“手の届くあこがれ”
人気の特選ブランドを11ラインアップ**

グッチ

ジミーチュウ

働く女性に向けて、バッグ・革小物・アクセサリーなど雑貨を中心に、自分へのごほうびアイテムを充実させました。

ファッションワールド

2F~9F

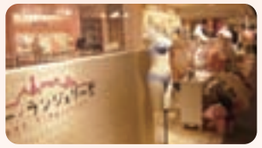
時代の感性を反映した旬のブランドが勢ぞろい

2階～9階の中層階に位置するファッションワールドには、時代の感性を反映した旬のファッションブランドを多数導入、ファッション提案の幅を広げました。

オー・ランジェリーゼ（4階）

オー・ランジェリーゼ

**関西最大!
25ブランドを揃えた新感覚の肌着ワールド**



従来のコンサルティング主体の売場に雑貨を選ぶ楽しさを取り入れた、新感覚の肌着&インナー売場。関西最大の品揃えの中から、街を散策するように気軽にお気に入りをお選びいただけます。

シンデレラアベニュー（4階）

Cinderella Avenue

**オリジナリティあふれる、
梅田店ならではの婦人くつ売場**

とことん探したい時も今すぐ欲しい時も、楽しく選んでいただける婦人くつ売場。お客様の選び方に合わせて売場を自主編集、異なるデザインイメージを扱う4つのコーナーを用意しました。

ごちそうパラダイス（地下2階）

生鮮食品からこだわりの専門店、便利なイートインまで

生鮮3品（肉、魚、青果）を中央に配置。新鮮な品揃えとコミュニケーションが楽しい、市場感覚の売場です。ごはんソムリエが常駐するお米専門ショップなど、こだわりの専門店も充実。便利なイートインも拡大しました。

>>>主要ショップ

＜マグロ専門店＞
稲三商店
初登場

＜お米＞
菊太屋米穀店
初登場

＜うどん＞
つるとんたん TOP CHEFS
日本初

ごちそうパラダイス（地下1階）

手土産用の名品も、デイリーなおやつ菓子も

和洋の特選・定番からデイリー用途のスイーツまで、52ブランドを集めて売場を拡大。ヨーロッパの伝統菓子をアレンジした5つのショップが並ぶ、お菓子の街「メンヒェングラードバッハ」も新登場。

大丸 大阪・梅田店

4月19日

全館グランドオープン

B2~1F

フーズ&グッズワールド

思わず立ち寄りたくなるグルメフロア

規模を1.5倍に拡大。百貨店らしい「ごちそう・こだわりアイテム」に加え、毎日の食卓を楽しくする「安くてうまい」品も充実、思わず立ち寄りたくなるフロアに仕上げました。

13階フロア

百貨店の既成概念を超えた、多彩なショップが集合

百貨店初登場の「ポケモンセンターオーサカ」「トミカショップ」をはじめ、ファミリー層や子育て世代の主婦、ヤングOLなど、幅広いお客様にご利用いただける集客力の高いショップを集めました。

>>>主要ショップ

ポケモンセンター
オーサカ
百貨店初

トミカショップ
百貨店初

ユニクロ

ABCクッキングスタジオ

東急ハンズ（10階~12階）

「ヒント・マーケット」を具現化した、関西地区フラッグシップストア

東急ハンズの関西旗艦店。店舗コンセプト「ヒント・マーケット」のもと、10階で多彩なステーショナリーを扱うほか、11階では手芸やホビーなどのものづくり、12階では女性をメインターゲットとした美と癒しを提案しています。

エキウエダイニング 美食区（14階）

幅広い味が楽しめる美食フロア

ランチからディナー、お酒まで、気軽に立ち寄って楽しめる“オトナの食のキーステーション”。庶民的な価格の京料理やビュッフェレストラン、シンガポール政府推薦の名店など、幅広い味が楽しめる美食フロアです。

10F~15F

エンターテイメント&ファミリーワールド

従来の百貨店にはない“コト消費・時間消費”を提供

テーマは“コト消費・時間消費”。顧客層の拡大と店全体への相乗効果を目指し、従来の百貨店にはない大型テナントを複数導入しました。当社が取り組む「新百貨店モデル」のひとつの形です。

関西

1 大丸心斎橋店
〒542-8501
大阪市中央区心斎橋筋一丁目7番1号
TEL：(06) 6271-1231

2 大丸梅田店
〒530-8202
大阪市北区梅田三丁目1番1号
TEL：(06) 6343-1231

3 大丸京都店
〒600-8511
京都市下京区四条通高倉西入立売西町79番地
TEL：(075) 211-8111

4 大丸神戸店
〒650-0037
神戸市中央区明石町40番地
TEL：(078) 331-8121

5 松坂屋高槻店
〒569-8522
大阪府高槻市
紺屋町2番1号
TEL：(072) 682-1111

6 大丸山科店
〒607-8080
京都市山科区
竹鼻竹ノ街道町91番地
TEL：(075) 255-7365

7 大丸新長田店
〒653-0038
神戸市長田区
若松町五丁目5番1号
TEL：(078) 643-2951

8 大丸須磨店
〒654-0154
神戸市須磨区
中落合二丁目2番4号
TEL：(078) 791-3111

9 大丸芦屋店
〒659-0093
芦屋市船戸町1番31号
TEL：(0797) 34-2111

中国 四国 九州

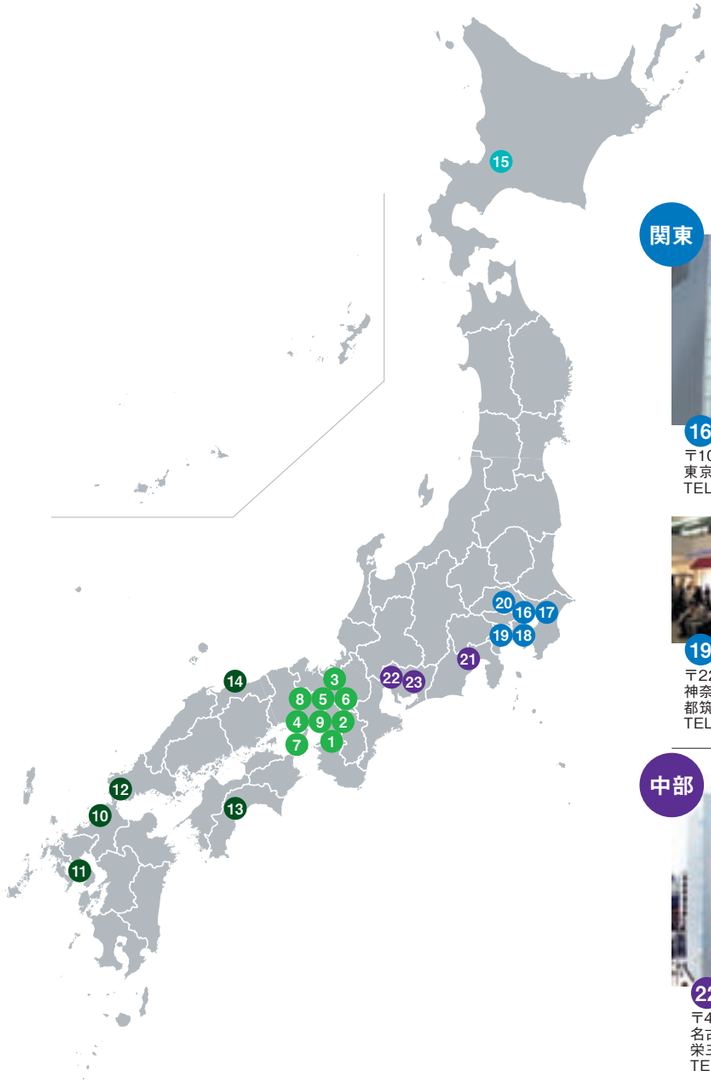
10 株式会社 博多大丸 福岡天神店

11 株式会社 博多大丸 長崎店

12 株式会社 下関大丸

13 株式会社 高知大丸

14 株式会社 鳥取大丸

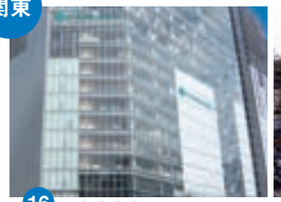


JFR network ネットワーク

北海道

15 大丸札幌店
〒060-0005
札幌市中央区北五条西四丁目7番地
TEL：(011) 828-1111

関東



16 大丸東京店
〒100-6701
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
TEL：(03) 3212-8011

17 松坂屋上野店
〒110-8503
東京都台東区上野三丁目29番5号
TEL：(03) 3832-1111

18 松坂屋銀座店
〒104-8166
東京都中央区銀座六丁目10番1号
TEL：(03) 3572-1111

19 大丸らら ぽーと横浜店
〒224-0053
神奈川県横浜市
都筑区池辺町4035-1
TEL：(045) 287-5000

20 大丸浦和パルコ店
〒330-0055
埼玉県さいたま市
浦和区東高砂町11番1号
TEL：(048) 615-6000

21 松坂屋静岡店
〒420-8560
静岡市葵区御幸町10番地の2
TEL：(054) 254-1111

中部

22 松坂屋名古屋店
〒460-8430
名古屋市中区
栄三丁目16番1号
TEL：(052) 251-1111

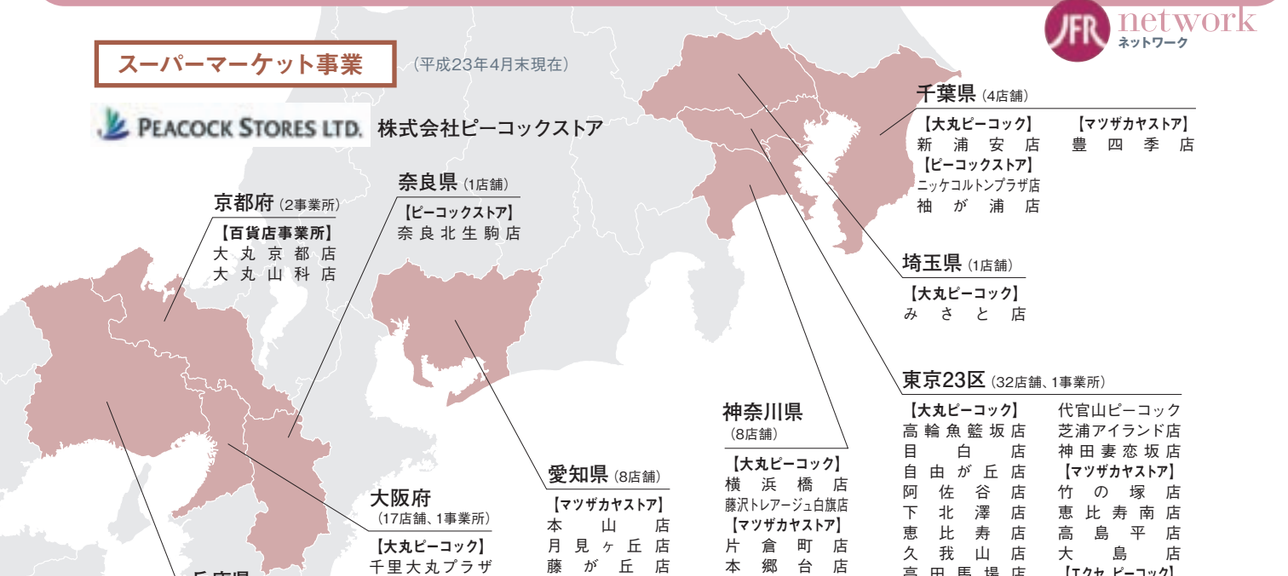
23 松坂屋豊田店
〒471-8560
愛知県豊田市
西町六丁目85番地1
TEL：(0565) 37-1111

JFR network ネットワーク

スーパーマーケット事業

（平成23年4月末現在）

株式会社ピーコックストア



千葉県（4店舗）
【大丸ピーコック】
新浦安店
【ピーコックストア】
ニッケコルトンプラザ店
袖ヶ浦店
【マツザカヤストア】
豊四季店

埼玉県（1店舗）
【大丸ピーコック】
みさと店

東京23区（32店舗、1事業所）
【大丸ピーコック】
高輪魚籃坂店
目白店
自由が丘店
阿佐谷店
下北澤店
恵比寿店
久我山店
高田馬場店
麻布十番店
井荻店
経堂店
都立家政店
桜新町店
文京グリーンコート店
三田伊皿子店
石川台店
三軒茶屋の杜店
トルナーレ日本橋浜町店
代官山ピーコック
芝浦アイランド店
神田妻恋坂店
【マツザカヤストア】
竹の塚店
恵比寿南店
高島平店
大島店
【エクセ ピーコック】
グランデュオ蒲田店
【ピーコックストア】
上池袋店
グランパーク田町店
上池台店
高野台店
青山店
@中野マルイ
【百貨店事業所】
大丸東京店

神奈川県（8店舗）
【大丸ピーコック】
横浜橋店
藤沢トレアージュ白旗店
【マツザカヤストア】
片倉町店
本郷台店
磯子店
【ピーコックストア】
洋光台店
白楽六角橋店
藤沢オーパ店

愛知県（8店舗）
【マツザカヤストア】
本山店
月見ヶ丘店
藤が丘店
菱野店
本郷店
平針店
三好店
千代田店

奈良県（1店舗）
【ピーコックストア】
奈良北生駒店

京都府（2事業所）
【百貨店事業所】
大丸京都店
大丸山科店

大阪府（17店舗、1事業所）
【大丸ピーコック】
千里大丸プラザ
津雲台店
北千里店
中宮店
松が丘店
塚原店
星田店
千里南町プラザ店
山田店
千里山店
箕面桜ヶ丘店
箕面外院店
西梅田店
新千里西町店
堂島クロスウォーク店
【ピーコックストア】
香里ヶ丘店
泉北晴美台店
【百貨店事業所】
大丸心斎橋店

兵庫県（11店舗、3事業所）
【大丸ピーコック】
明舞店
狩場台店
甲子園店
甲東園店
武庫之荘店
甲南店
芦屋川西店
宝塚中山店
新神戸店
【ピーコックストア】
高倉台店
芦屋南宮店
【百貨店事業所】
大丸神戸店
大丸須磨店
大丸芦屋店

ピーコックストア青山店

その他の事業

（平成23年4月末現在）

大丸興業株式会社
株式会社**J.フロント建装**
JFRカード株式会社
株式会社**JFRオンライン**
株式会社**ディンプル**
株式会社**J.フロントフーズ**
株式会社**大丸コム開発**
株式会社**消費科学研究所**
株式会社**JFR情報センター**
株式会社**JFRオフィスサポート**
株式会社**JFRサービス**
株式会社**JFRコンサルティング**
株式会社**セントラルパークビル**
株式会社**エンゼルパーク**
株式会社**大丸松坂屋友の会**

Topics トピックス

東日本大震災にさまざまな支援

東日本大震災で被災された皆様に役立てていただこうと、当社グループは義援金として日本赤十字社他に3,000万円を、東北物産展などで交流のある宮城県、岩手県、福島県、青森県に各100万円をそれぞれ寄贈しました。

さらに、緊急物資支援として、毛布1,000枚、マスク20万枚、簡易トイレ、ラジオなどをNGO団体「ピースウィンズ・ジャパン」を通じて岩手県大船渡市に、マスク143万枚を岩手県に、食品（レトルト食品、缶詰、菓子他）、日用品（薬用石鹸、歯ブラシ、タオル他）など合計約8万点を宮城県および岩手県の各受入窓口にそれぞれお届けしました。加えて、妊産婦用の肌着やマタニティー等1,000点を岩手県二戸市の病院にお届けし、NGO団体「ジョイセフ」を通じて、被災地の妊産婦さんへお渡ししました。

このほか大丸、松坂屋、ピーコックストア各店舗の店頭で4月30日まで募金活動を実施し、寄せられた義援金計2,576万円と当社グループの役員、従業員、お取引先勤務員からの募金1,213万円を日本赤十字社他に寄贈いたします。

また、大丸東京店、松坂屋上野店などでは、東北・関東地方の新鮮な野菜や地酒を販売する「応援フェア」も開催しました。今後も被災地の皆様のニーズを把握しつつ、J.フロント リテイリンググループとしてできる限りの支援を行ってまいります。

被災地にお届けした支援物資（上）
松坂屋上野店で実施した募金活動（下）

大丸神戸店の婦人服売場を改装「うふふガールズKOBE」など多彩なショップを展開

大丸神戸店は2月、3階婦人服売場を改装オープンしました。各店で好評のスペシャリティゾーン「うふふガールズ」や、ファッション感度の高いアラウンド30（25～34歳）に向けたセレクトショップを新たに導入。トレンドだけでなく、神戸らしい上質さや上品さも随所に散りばめたフロアに仕上げました。

生まれ変わった婦人服売場の主なターゲットは、三宮・元町地区を訪れるアラウンド30やヤング（18～24歳）の女性。「『いつ行っても楽しい』『誰と行っても楽しい』鮮度と活気に溢れる旬のトレンドファッションと雑貨のフロア」をコンセプトに、計20店舗を取り揃えています。また、レストスペースやパウダールームにもターゲット世代の志向を取り入れ、ターゲット世代の「お気に入り」を目指した売場づくりに取り組みました。

顧客層を巻き込んだ販促を実施

大丸神戸店では「うふふガールズKOBE」の誕生に際し、ターゲットとなる顧客層を巻き込んだ今までにない販促活動を実施しています。

「うふふガールズKOBEサポーターズ」を結成

地元女子大生らによる「うふふガールズKOBEサポーターズ」を結成。三宮地区を中心に街頭宣伝を行いました。女子大生に販促活動に参加してもらうことによる「口コミ効果」を狙ったものです。

デジタルサイネージを設置

「うふふガールズKOBE」内に、タッチパネル式のデジタルサイネージ（ネットワーク接続された電子看板）を設置。最新の情報を、お客さまのニーズに合わせて自在に取得できるようにしました。デジタルサイネージの売場設置は、大丸松坂屋百貨店初の試みです。

会社の概要 （平成23年5月1日現在）

商　　号：J.フロント リテイリング株式会社
本社所在地：東京都中央区銀座六丁目10番1号
設　　立：平成19年9月3日
事業内容：百貨店業等の事業を行う子会社及びグループ会社の経営計画・管理並びにそれに付帯する業務

資　本　金：300億円
発行可能株式総数：2,000,000,000株
発行済株式の総数：536,238,328株

役　　員

取締役会長（代表取締役）兼最高経営責任者	奥田　務	株式会社大阪証券取引所社外取締役 株式会社りそなホールディングス社外取締役
取締役社長（代表取締役）	茶村　俊一	
取締役	山本　良一	株式会社大丸松坂屋百貨店代表取締役社長
取締役 兼常務執行役員	塚田　博人	経営計画事業統括部長
取締役 兼執行役員	林　俊保	業務統括部長 株式会社白洋舎社外取締役
取締役	髙山　剛	大同特殊鋼株式会社相談役
取締役	竹内　功夫	オーミケンシ株式会社社外取締役
監査役	古田　武	
監査役	清水　定彦	東邦瓦斯株式会社特別顧問
監査役	鶴田　六郎	弁護士 駿河台大学法科大学院教授 帝国ピストンリング株式会社社外取締役 株式会社三菱ケミカルホールディングス社外監査役
監査役（常勤）	城戸　敏雄	
監査役（常勤）	中村　順司	

（注）1.取締役髙山剛、竹内功夫の両氏は、社外取締役であります。
2.監査役古田武、清水定彦、鶴田六郎の3氏は、社外監査役であります。

執行役員	斎藤　賀大	経営計画事業統括部部長経営企画担当
執行役員	阪下　正敏	経営計画事業統括部部長グループシステム戦略担当 兼株式会社大丸松坂屋百貨店執行役員業務本部システム企画部長 兼株式会社JFR情報センター代表取締役社長
執行役員	松田　伸治	経営計画事業統括部部長開発事業担当
執行役員	清水三樹夫	経営計画事業統括部部長関連事業担当
執行役員	平山誠一郎	経営計画事業統括部グループ組織要員政策担当 兼株式会社大丸松坂屋百貨店執行役員業務本部人事部長
執行役員	土井　和夫	業務統括部グループコスト政策担当 兼株式会社大丸松坂屋百貨店執行役員業務本部コスト構造改革推進部長 兼株式会社JFRコンサルティング代表取締役社長
執行役員	小澤　雅	業務統括部財務部長
執行役員	樋口　雅一	株式会社ピーコックストア代表取締役社長
執行役員	榎本　朋彦	株式会社JFRオンライン代表取締役社長

株式情報・株主メモ （平成23年2月28日現在）

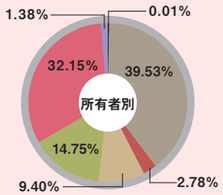
株式の状況

発行可能株式総数　2,000,000,000株
発行済株式の総数　536,238,328株
株主数　73,028名

大株主	所有株数（千株）	持株比率（%）
1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	32,576	6.16
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	32,178	6.08
3 日本生命保険相互会社	28,906	5.46
4 株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	14,291	2.70
5 J.フロント リテイリング 共栄持株会	14,222	2.68
6 第一生命保険株式会社	11,564	2.18
7 東京海上日動火災保険株式会社	8,369	1.58
8 J.フロント リテイリング 従業員持株会	7,693	1.45
9 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口）	6,409	1.21
10 株式会社竹中工務店	5,725	1.08

（注）持株比率は、自己株式（7,423千株）を控除して計算しております。

所有者別分布状況	株主数（名）	株式数（千株）	百分率（%）
政府・地方公共団体	1	59	0.01
金融機関	82	211,977	39.53
金融商品取引業者	54	14,891	2.78
その他の法人	841	50,433	9.40
外国法人等	356	79,071	14.75
個人・その他	71,693	172,380	32.15
自己名義株式	1	7,423	1.38



剰余金の配当の基準日：期末2月末日　中間8月31日
定時株主総会の基準日：2月末日
定時株主総会：5月中に開催
公告方法：電子公告をもって行います。ただし、事故やその他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
（登記ホームページ　http://www.j-front-retailing.com/）

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関：三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先：三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号
（電話料無料）（0120）232-711

（ご注意）
1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

当社ホームページアドレス：http://www.j-front-retailing.com/
より詳細な開示情報や最新の企業情報をご覧いただくことができます。